

報 告 書

令和 6 年 1 月 30 日

岡山県議会議長 小倉 弘行 殿

議員氏名

蓮岡 靖之



(署名または記名押印)

派遣の概要は次のとおりでした。

1 目 的 (議員派遣申請書の「目的」欄と同じ内容)

昨今の国を取り巻く情勢の変化に対し、地方における国防の在り方を調査することを目的とする。

2 派遣場所 (議員派遣申請書の「派遣場所」欄と同じ内容)

I 航空自衛隊西部高射群 第8高射隊高良台分屯基地

(福岡県久留米市荒木町藤田官有地)

II 陸上自衛隊第4師団 福岡駐屯地

(福岡県春日市大和町5丁目12)

3 派遣期間 令和6年1月17日 ～ 令和6年1月18日

(議員派遣申請書の「派遣期間」欄と同じ内容)

【報告事項】 別紙に記入される場合は、「別紙のとおり」として、添付してください。

I 航空自衛隊西部高射群 第8高射隊高良台分屯基地

〔対応〕 西部高射群 第8高射隊長兼高良台分屯基地司令 渡辺 陽平氏

〔概要〕 我が国を取り巻く国際情勢が緊迫する中、航空自衛隊が担っている任務について、特に北朝鮮からの年間にわたる数十回の弾道ミサイルの発射に対し、一早く即応するための施設である当基地について、航空自衛隊の任務行動、編成、防空、弾道ミサイル防衛、統合防空ミサイル防衛について概要の説明を受けた。また当基地の沿革および主要装備品、訓練や活動についても説明を受け、実際に装備品を視察させていただき国土防衛についてさらに見識を深めた。



〔考察〕わが国に飛来する弾道ミサイル等の対処にあたっては、海上自衛隊のイージス艦と航空自衛隊のペトリオット PAC-3 で対処するいわゆる二段構えの運用となっているが、そのため発射時点での早期確認が最重要ではないかと思ってお尋ねしたが、その点は明確にはお答えがなかった。しかしながらメディアには載らないが、その情報は瞬時に把握されているというような雰囲気であった。また迎撃を必要とされない内容の場合（日本列島を超えて飛んでいくような場合）には、影響も考えあえて撃ち落さないという判断もされているとのこと。いずれにしても、弾道ミサイルが本土に達し被害がでることのないように万全を期して頂きたいと願うばかりである。本県に翻って考えてみれば、いざ岡山県域にミサイルが達するような状況となった時、県民の安全安心を守るためにまさに自衛隊と岡山県との情報共有や連携が取れるように、十分なシミュレーションが図られているのかどうか懸念される。今後は県行政に対し、その点を確認し場合によっては対策を求めていきたいと思う。この視察を通して自衛隊と岡山県とのしっかりとした協力体制、連携が重要であることを再認識した。また、最近お子様が生まれた司令が、これから育休を取られることをお聞きし、好感を抱くとともに良好な職場環境が構築されていることも見て取れ、好印象となった。

Ⅱ 陸上自衛隊第四師団 福岡駐屯地

〔対応〕 第四師団副師団長 兼福岡駐屯地司令 伊東 佳哉氏

第四師団司令部 幕僚長 矢野 秀樹氏

〔概要〕 陸上自衛隊第四師団は師団司令部及び司令部付隊である福岡駐屯地をはじめ、13 コの部隊からなり、北部九州 4 県において地域と密接に連携しながら防衛・警備及び災害派遣等の任務を遂行している。1950 年に警察予備隊第 4 管区隊総監部として開設され、その歴史は本年で 74 周年を迎える。任務としては北部九州四県の防衛・警備という任務を遂行するため各種事態に対応しうる即応態勢を常に維持するとともに、様々な訓練を実施して部隊・隊員の能力向上に努めている。また平素から各種災害に即応しうる即応態勢を維持するとともに、災害対応に求められる能力の向上や自治体等関係機関と

の連携の強化に取り組んでいる。さらに、災害が発生した場合には災害派遣要請に基づき部隊を速やかに派遣し、人命救助、生活支援等の活動を行っている。そのほか、大規模災害に見舞われた海外の被災国に対し、救助・医療活動や航空機による物資輸送等の援助を行う「国際緊急援助隊」として国際平和協力活動にもあたっている。

また、創立記念行事や音楽隊による演奏会の開催、自治体等が実施する各種行事に対する支援等、「地域とともにある師団」としての取組を積極的に行っている。



〔考察〕北部九州における朝鮮半島や中国大陸など隣接する国防の第一線であり歴史的にも戦略的にも必要な位置づけであることが確認できた。また近年多発する地震を含む自然災害にも自衛隊の尽力は不可欠であり、我が国における自衛隊のあり方をさらに認識できた福岡駐屯地は規模も大きく福岡市内に近いという立地条件等により女性隊員の希望が多い基地とお聞きした。近年、女性隊員の増加ということもあり住居面の生活状況等は改善されつつあるとのこと。重要なことであり、今後は勤務体制についてもその観点が必要なことであると思う。施設や装備類の説明も受けたが、比較的新しい装備であるように感じた。他にも災害協力や、地域住民との交流等もしっかりと図られており、十二分に地域社会に根付いているように見受けられた。岡山県においても日本原駐屯地を中心に、行政との連携強化をさらに図っていかねばならないと再認識した。今後は、行政当局には自衛隊との平素からの連携協力態勢について、改めて現状をお伺いしその重要性について提案していきたいと思う。

- ・調査にあたってのねらい、調査内容、考察、今後の取組等を中心に作成されている例が多く見られます。
- ・調査内容を補完するような資料がある場合は添付してください。